

事業番号11 「赤井谷地保存整備事業」

(担当課：文化課)

赤井谷地沼野植物群落（あかいやちしょうやしよくぶつぐんらく）は、市内北東部、猪苗代湖の西岸から約1 kmに位置する標高525 mの高層湿原であり、国の天然記念物に指定されています。

かつては猪苗代湖と一体の湖でしたが、水面の低下に伴い、約2万年前から湖底に泥炭層が堆積して形成されました。泥炭層の厚さは最大3.4 mと言われており、自生している約200種類の植物のうち、北方系の植物が38種確認されています。現在、周辺の農地開発により谷地内の乾燥化が進んだため、関係機関や周辺地区の方々と連携し、湿原回復に取り組んでいます。



赤井谷地沼野植物群落

1. 地下水調査

農地整備に伴い、耕作放棄地の設定、谷地南側の指定地境界部への鋼矢板の設置、農業用水「新四郎堀」の付け替えと遮水板設置等の対策を行い、その効果を検証するため、平成13年度から指定地内外の地下水量や水質等を調査しています。

平成30年度は、全国的な猛暑と記録的な少雨による渇水の影響もあり、特に谷地の周縁部にて地下水位の低下が見られましたが、今後も経過を観察する必要があります。

こうやいた

2. 植生調査

谷地の南東部から南西部にかけて、かつて耕作地だった幅約10 mの範囲を谷地緩衝帯に位置づけ、平成14年度から植生の変化を調査しています。

調査の結果、ヨシ、ハンノキ、ヤナギの量は、平成23年度より安定しており、ここ数年大きな変化はありません。

ただし、ヤナギは降雪や虫の影響により減少傾向にあり、やがてハンノキ林になるものと考えられますが、湿原回復にはまだ時間がかかるものと考えられます。



遮水板設置後の状況

事業番号12 「花と緑の推進事業」

(担当課：花と緑の課)

公共施設等への花の植栽などを実施しながら、花と緑のスタッフ活動を中心に、市民参加による「美しいまちづくり」を進めています。また、花苗生産基地において、市民自らが花苗を生産し、市内の公共施設や商店街等を花で彩ることにより、本市の特色を活かした良好な居住環境の形成を進めるとともに、地域の緑化・美化を進めています。



花と緑のスタッフ作業風景



花苗生産活動の様子

1. 花と緑のスタッフ活動

- 活動参加者 56名(延べ449名)
- 活動概要 公共施設の花壇への花植栽及び維持管理を行う。
- 実施内容 4月中旬から11月中旬にかけて、プランターや公共花壇への花苗定植、除草、花がら摘み、水やり、苗抜きなど、市民や観光客に喜ばれる花壇づくりを目指し活動をしています。

2. 花苗生産活動

- 活動参加者 町内会等団体69・個人19(延べ398名)
 - 活動概要 仮植作業(※)
 - 実施内容 年2回(春・秋)実施している仮植作業に参加することにより、生産した花苗を各町内の花壇や沿道に彩り、各地区の緑化美化を推進しています。
平成30年度の生産本数は約93,000本となり、約62,000本が生産活動参加者へ配付されています。
- ※仮植(かしょく)作業…数センチに育った苗を1本ずつポットに植える作業

3. 庁舎等の緑化美化推進

- 対象施設 104施設
- 活動概要 市庁舎・小中学校・公共公益施設において、花壇・プランターの管理を行う。
- 実施内容 花苗生産活動や公園緑地協会で生産した花苗を、小中学校や公共施設等に配付し、公共施設の緑化美化を推進しています。
平成30年度は約31,000本の花苗が配付されています。



事業番号13 「野生生物生息環境保全事業」

(担当課：環境生活課)

本市は背あぶり山や猪苗代湖などの豊かな自然に恵まれており、たくさんの生き物たちが生息する豊かな生態系が築かれています。

市では、豊かな自然を将来に引き継いでいくためには、生き物を知り、その環境を守ることが大切であると考え、以下の事業を実施しています。

1. 野生生物生息環境調査

市内の野生生物の生息環境の変化について、市内25地点を調査しています。平成30年度の調査では、特に大きな変化は見られませんでした。

2. 自然環境教室

自然観察を通じて身近な自然の大切さについて理解していただくために、年3回自然環境教室を開催しています。(開催内容については、「各種環境教室や環境講座の実施」(42ページ)を参照。)

3. ホームページ等での啓発

身近に生息している生き物について知る機会を増やすために、平成17年度より、ホームページ上に「身近な生き物大図鑑」を掲載し、市内に生息する生き物約600種類を紹介しています。

また、平成27年度からは生き物についてのコラムを掲載し、季節の生き物の特徴や生態について解説しています。



身近な生き物大図鑑
市ホームページのトップページ

4. 身近な生き物基本調査会議の開催

生き物の各分野における専門的な知識を有する学識経験者(身近な生き物基本調査会議委員)により構成される会議であり、本市の身近な生き物の生息状況や生態情報、市の啓発事業等、生き物に関することについて、専門的な立場からご意見をいただいています。

5. 各イベントでの啓発

環境フェスタなどのイベントにおいて、ハクビシンやフクロウなどの剥製の展示や外来生物について解説したパネルを展示するなど、野生生物の生息環境を守ることの大切さについて、PRしています。

【身近な生き物とは…】

市内で確認された哺乳類、鳥類、は虫類、両生類、魚類、昆虫類、植物の中から、「会津若松市身近な生き物基本調査会議」で、下記の2つの基準で約600種の生き物が選定されています。

- (1) 市内での生息が確認されている生き物
- (2) 市民が比較的容易に見ることができ、わかりやすい生き物。または季節感の指標となる生き物（ウグイスやアブラゼミなど）など市民の生活につながりのある生き物。



ニホンリス



ミヤマクワガタ



アカハライモリ



イトヨ

事業番号 15 「グリーンツーリズム支援事業」

(担当課：農政課)

平成 22 年に農業・農村体験を受け入れている農家と受け入れを希望する農家、地域、団体により「会津若松市グリーンツーリズム・クラブ」を設立し、学習会や PR 事業、交流会を行いながら、楽しい受け入れができる態勢を整備するため、活動しています。

会津若松市では当該団体が活発な活動を行うための支援を行い、また農業体験を希望する人の受け入れを行っています。

1. 平成 30 年度受入実績

- 会員数：34 名
- 総受入人数：5,435 名



クラブホームページバナー

2. 受入態勢を整備するための事業

(1) 先進地視察の実施

- 実施日：平成 30 年 11 月 13 日（火）・14 日（水）
- 視察先：農家民宿「裏五頭山荘」、タカギ農場、新潟市アグリパーク
- 内 容：体験受入実践者等訪問
- 参加者：クラブ会員 8 名・事務局 2 名

(2) 学習会の開催

- 実施日：平成 30 年 9 月 7 日（金）
- 場 所：生涯学習総合センター 會津稽古堂
- 内 容：外国人の農業体験受入のための学習会
- 参加者：クラブ会員 7 名・オブザーバー 2 名・事務局 2 名

(3) 研修会の開催

- 実施日：平成 31 年 2 月 21 日（木）
- 場 所：会津若松ワシントンホテル
- 内 容：外国人旅行者を受け入れるための研修会
- 参加者：クラブ会員 2 名、事務局 2 名、一般参加者 67 名

3. 地域内イベント

(1) グリーンツーリズム体験ツアーの開催

- 実施日：平成 31 年 2 月 16 日（土）
- 場 所：北会津町地内
- 内 容：雪下キャベツ収穫体験・イチゴ狩り・農家民宿での昼食
- 参加者：大人 14 名、未就学児 1 名、事務局 2 名

様々な体験をとおして会津若松の農業や農村の魅力をお伝えしています



事業番号 16 「猪苗代湖環境保全推進事業」

(担当課：環境生活課)

猪苗代湖は、毎年、湖水浴などの利用者が多数訪れる大切な観光資源であるとともに、農業用水や飲料水としても利用されるなど、市の貴重な水資源でもあります。

1. 会津若松市の取組

猪苗代湖の水環境保全のための施策を具体的、体系的に示す基本的な計画として「会津若松市猪苗代湖水環境保全推進計画」を平成15年2月に策定し、平成26年3月に第2期環境基本計画に統合しました。

この計画に基づき、環境生活課では、幅広い年齢層の人たちに猪苗代湖に関心を持ってもらえるよう、「猪苗代湖の水環境講座」の開催や「環境フェスタ」、市のホームページの中で猪苗代湖の水環境について紹介しました。



環境フェスタ会場の展示

【猪苗代湖岸一斉クリーンアップ作戦と水環境講座】

- 開催日：平成30年8月5日（日）
- 場 所：猪苗代湖（崎川浜）及び湊公民館会議室
- 参加者：15名（水環境講座6名、地元9名）
- 内 容：クリーンアップ作戦では地元の皆さんと協力して、14kgのごみを回収しました。また、浜及びキャンプ場の利用者へ啓発グッズを配布し水環境保全の啓発を行いました。午後からの水環境講座では、猪苗代湖の持つ自然の浄化作用について、実験をまじえて学びました。



猪苗代湖岸クリーンアップ作戦

2. 猪苗代湖環境保全推進連絡会の取組

「猪苗代湖環境保全推進連絡会」は、猪苗代湖の境界の確定をきっかけにして、周辺自治体である会津若松市、郡山市、猪苗代町の2市1町が連携して猪苗代湖の水環境を保全するため平成13年2月に設立されました。

平成30年度は、湖岸一斉クリーンアップ作戦、ビーチクリーナーによる湖岸清掃、ヨシ屑や流木等湖岸堆積物の除去、県への要望活動を実施しました。また、子ども交流会を会津若松市で開催し、猪苗代湖に隣接する湊小学校（会津若松市）・湖南小学校（郡山市）・翁島小学校（猪苗代町）の児童が一堂に会し、各校の環境学習や保全活動について発表しました。



ビーチクリーナーによる湖岸清掃



猪苗代湖子ども交流会

3. 猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会の取組

「猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会」は 猪苗代湖及び裏磐梯湖沼流域の水環境の保全のため、福島県や流域市町村、各関係機関・団体により、平成12年11月に設立されました。

平成30年度は、4月14日に猪苗代町天神浜、6月23日に郡山市湖南町舟津浜、11月1日に猪苗代町白鳥浜で、クリーンアクションを実施し、湖岸清掃やヒシ刈り等の実践的な取組を行うとともに、11月6日には、猪苗代町体験交流館「学びいな」にて『水環境フォーラム』を開催し、関係団体の水環境保全の取組等について情報交換し、啓発活動も行いました。

また、「湖美来基金(※)」の助成を受けた22の個人や団体が、年間を通じ水環境保全活動に取り組みました。

※湖美来(みずみらい)基金…湖美来クラブの会費や寄付を基に創設した基金。猪苗代湖や裏磐梯湖沼の水環境保全活動に取り組む個人や団体に対して助成を行う。

4. 紺碧の猪苗代湖復活プロジェクト会議の取組

「紺碧の猪苗代湖復活プロジェクト会議」は、猪苗代湖の美しい水環境を復活させ、未来の世代に継承していくことを目指して、県民、民間団体、事業者及び行政等、猪苗代湖に関わりをもつあらゆる主体の共通認識の下、水環境保全に向けた活動を一丸となって推進していくため、猪苗代湖水環境保全関係団体等連絡会議の部会として平成24年5月31日に設立されました。県民参加によるボランティア清掃や水草回収、親子環境学習会等を行っています。

また、猪苗代湖北岸では、近年ヒシが増え続けていることや作業者の高齢化等のために、手作業での除去作業が厳しい状況になっていましたが、平成26年度からは刈取船を導入し、平成30年度は、のべ23日間で約115トンのヒシを回収しました。

5. NPO法人「輝く猪苗代湖をつくる県民会議」の取組

近年、猪苗代湖の水質が低下し、水質日本一からランク外になったことを受けて、平成20年6月に産・学・民・官が一体となり、猪苗代湖の美しい水環境を次代に伝えるため「清らかな湖、美しい猪苗代湖の水環境研究協議会」が設立されました。平成27年度からは協議会を発展解消し、新たにNPO法人「輝く猪苗代湖をつくる県民会議」として活動を引き継いでいます。

また、秋から冬にかけて天神浜・松橋浜に打ち寄せられる水草が腐敗し、水質汚濁の原因となっていることから、平成22年度からは、ボランティアによる水草回収・堆肥化事業が開始され、平成30年度は16回実施され、1,811名が参加して、約173㎡の水草を回収することができました。



刈取船の作業の様子



天神浜にうち寄せられた大量の水草



水草回収の様子